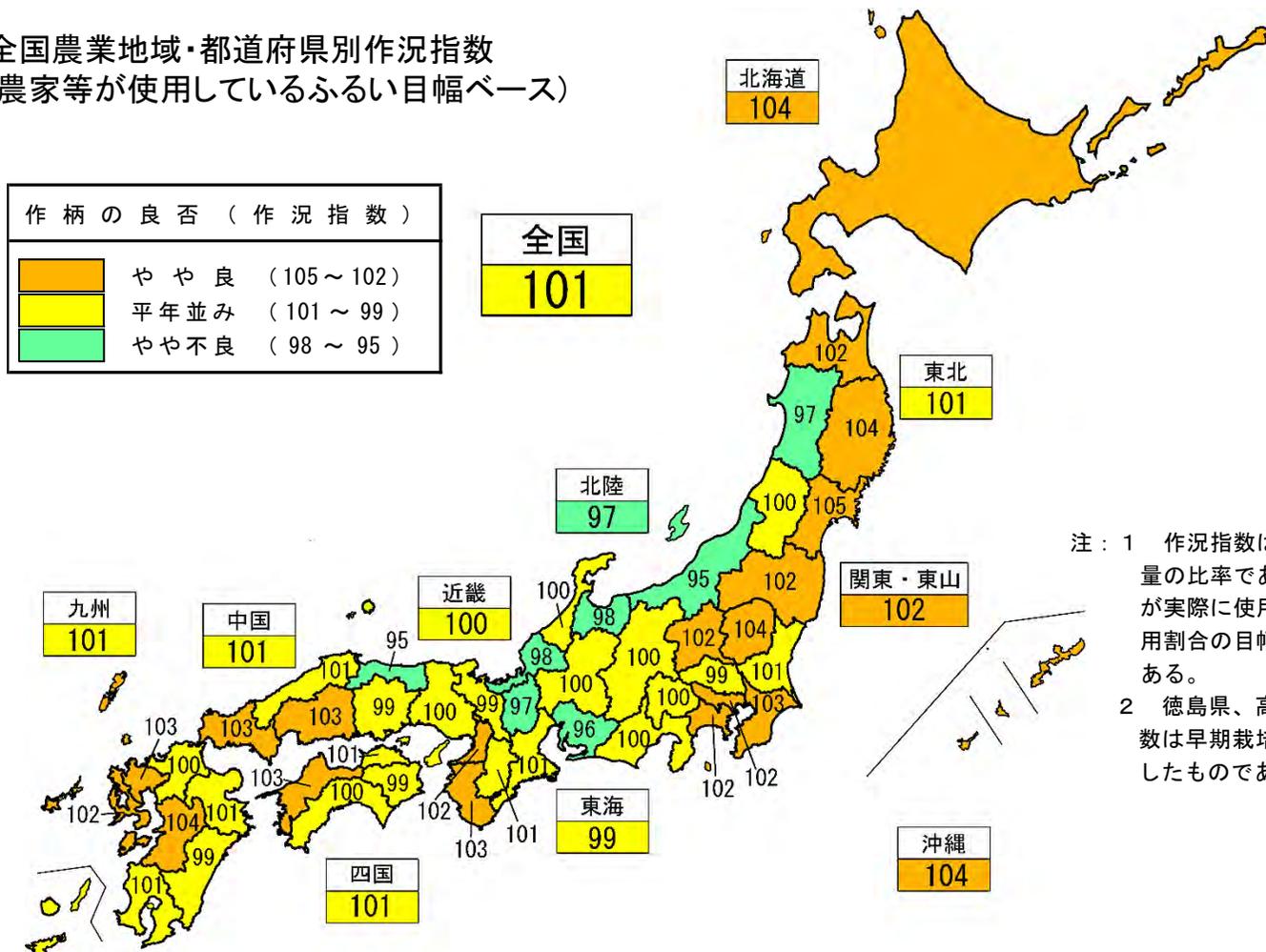


令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 全国の10a当たり収量（1.70mmのふるい目幅ベース）は533kg。
- 主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた主食用の収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）となった。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101。

全国農業地域・都道府県別作況指数
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

令和5年産の水田における作付状況

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（125.1万ha）から0.9万ha減少（▲0.7%）し、124.2万haとなった。
- ・ 令和5年産で畑地化に取り組む面積は、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えると3.0万haとなった。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等								備蓄米	
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	飼料作物 そば なたね		戦略作物等 合計面積
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲					
H29年産	137.0	5.2	0.1	0.5	9.2	4.3	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R元年産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R2年産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R3年産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R4年産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R5年産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1	3.5
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	0.4	0.2	1.4	1.9 (3.0)※	—

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

※R5年産畑地化面積の戦略作物等合計面積欄の3.0万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況（令和6年6月末時点））①

- 6月末時点での各都道府県の主食用米の作付意向は、5年産と比べて、増加傾向16県、前年並み18県、減少傾向13県。
- 戦略作物については、加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）及びWCS用稲を増加傾向とする県が多い。特にWCS用稲については4月末時点と比較して、増加傾向とする県が25県から39県に増加。他方で、飼料用米は42県とほとんどの県で減少傾向。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年6月末時点）】

下段 [] は4月末時点の作付意向

	主食用米	戦略作物						備蓄米	
		加工用米	新市場開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵粗 飼料用稲 〕	麦		大豆
前年より 増加傾向	16県 [11県]	20県 [20県]	29県 [26県]	19県 [20県]	2県 [1県]	39県 [25県]	17県 [24県]	6県 [7県]	6県 [5県]
前年並み	18県 [25県]	8県 [10県]	4県 [6県]	1県 [9県]	2県 [9県]	3県 [15県]	11県 [10県]	8県 [12県]	2県 [5県]
前年より 減少傾向	13県 [11県]	16県 [14県]	5県 [6県]	26県 [16県]	42県 [36県]	4県 [6県]	17県 [11県]	31県 [26県]	23県 [21県]

- 注1：令和6年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、5年産実績との比較。
 注2：比較している主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
 注3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
 注4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 注5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況(令和6年6月末時点)）②

(ha)

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米			
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米(輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲(稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		5年産実績	6年産意向(対前年実績)
		6月末時点(今回公表)	4月末時点(前回公表)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		
全国計	124.2万			48,797		9,091		7,587		133,925		53,055		104,958		88,164		35,359	
北海道	82,200	↗	↗	6,920	↘	1,974	↗	143	↗	6,788	↘	1,594	↗	34,172	↘	17,926	↘	2,089	↘
青森	33,800	↗	↗	787	↘	321	↗	12	↘	7,930	↘	788	↗	557	↘	4,832	→	5,661	↘
岩手	42,800	→	→	1,283	→	417	↗	30	↘	5,739	↘	2,396	↗	3,520	→	4,218	↘	663	↘
宮城	57,200	↗	↗	626	↗	894	↗	103	↘	9,801	↘	2,757	↗	2,188	↗	9,542	↘	2,144	↗
秋田	69,900	↗	→	8,264	↗	500	↗	329	↗	4,265	↘	1,235	↗	182	↘	8,713	↗	3,955	↘
山形	52,400	→	→	4,516	→	440	↗	112	↘	5,138	↘	1,239	↗	74	↗	4,658	↘	3,484	↘
福島	53,100	↗	↗	448	↘	142	↗	12	↗	11,722	↘	1,079	↗	340	→	909	↘	4,753	↗
茨城	57,800	↗	↗	947	↗	762	↗	55	↗	13,886	↘	653	↘	4,038	→	775	↘	217	↘
栃木	47,200	↗	↗	1,513	↗	70	↘	1,418	↘	15,069	↘	2,177	↗	7,501	→	420	↘	1,149	↘
群馬	12,400	↗	↗	1,389	↘	0	↗	168	↗	1,661	↘	621	↗	2,187	↗	119	↗	-	-
埼玉	27,500	↗	→	144	↗	52	↗	769	↗	3,605	↘	124	→	1,877	↗	383	↘	43	↘
千葉	45,800	↗	↗	1,672	↗	35	↗	135	↘	10,154	↘	1,316	↗	445	↘	263	→	122	↗
東京	111	→	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	→	→	-	-	-	-	-	↗	13	↘	2	↗	4	→	6	→	-	-
新潟	100,600	→	→	7,093	↘	1,586	↗	1,784	↘	4,032	↘	533	↗	189	↗	3,997	↘	4,559	→
富山	31,200	→	→	1,220	↘	342	↗	266	↗	2,096	↘	480	↗	2,834	→	4,165	↘	2,202	↘
石川	20,800	→	→	481	↗	65	↗	371	↘	1,131	↘	127	↘	1,198	↗	981	→	1,629	↘
福井	21,500	↗	↗	322	↗	132	↗	213	↘	1,976	↘	160	↗	5,210	→	76	↗	1,218	↘
山梨	4,660	↘	↘	62	↗	-	-	29	↘	21	↘	18	↗	62	→	99	→	-	-
長野	29,300	→	→	733	→	245	↗	24	↗	429	↘	265	↗	2,553	↘	671	↘	257	↘
岐阜	19,700	→	→	741	↗	78	↗	65	↘	3,496	↘	303	↗	3,689	→	359	↘	94	↗
静岡	15,000	→	→	105	↘	1	→	8	↗	1,011	↘	330	→	244	↗	38	↘	4	↘
愛知	24,700	↗	↗	573	↗	44	→	278	↗	2,040	↘	182	→	5,646	→	70	→	176	↘
三重	24,900	→	→	168	→	54	↗	95	↘	2,426	↘	303	↗	7,050	↗	188	↘	53	↘

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
 2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
 3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
 4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
 5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況(令和6年6月末時点)）③

(ha)

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米			
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米(輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲(稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		5年産実績	6年産意向(対前年実績)
		6月末時点(今回公表)	4月末時点(前回公表)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		
滋賀	27,000	↗	→	608	↘	205	↗	58	↘	2,033	↘	310	↗	8,222	↗	591	↘	282	↘
京都	13,200	→	→	551	↘	25	↗	10	↗	133	↘	158	↗	290	↘	266	↘	-	-
大阪	4,430	↘	↘	0	↗	-	-	5	↘	6	↘	4	↗	2	↘	8	↘	-	-
兵庫	32,500	↘	↘	674	→	185	→	48	↘	819	↘	972	↗	1,932	↗	1,658	↘	-	-
奈良	8,200	→	→	19	↘	-	-	36	↘	50	↘	43	↘	68	→	22	→	-	-
和歌山	5,780	→	→	-	-	-	-	1	↗	3	↘	4	↘	4	↗	11	↘	-	-
鳥取	11,700	→	→	25	↘	33	↗	0	↗	821	↘	392	↗	68	↗	619	↘	79	↘
島根	15,900	↘	↘	252	↘	2	→	7	↗	804	↘	745	↗	280	↘	631	↘	26	↘
岡山	26,900	↗	↘	295	↘	189	↘	120	↘	1,824	↘	475	↗	1,269	↘	1,116	↘	152	↘
広島	20,500	↘	→	351	↗	44	↗	96	↘	443	↘	708	↗	318	↘	225	↗	10	↗
山口	16,000	↘	↘	976	→	86	↗	43	↘	1,108	↘	410	↗	711	↗	816	↘	-	-
徳島	9,480	↗	↗	20	→	40	↘	11	↗	1,007	↘	247	↗	55	↘	7	↘	198	↘
香川	10,100	↘	↘	48	↗	28	↗	7	↘	195	↗	269	↗	1,322	↘	39	↘	-	-
愛媛	12,800	→	→	34	↗	-	-	6	↘	344	→	217	↗	430	↗	313	↗	-	-
高知	10,200	→	→	84	↗	-	-	18	↗	1,135	↘	321	↗	5	↘	54	↘	2	→
福岡	32,300	↘	→	224	↘	12	↗	322	↘	2,475	↘	2,068	↗	1,141	↘	7,794	↘	11	↘
佐賀	21,700	↗	→	406	↘	8	↗	19	↘	829	↘	2,246	↗	1,412	↘	6,251	↗	42	↘
長崎	10,000	↘	↘	6	↘	10	↘	4	↗	117	↗	1,549	↗	78	↗	256	↘	-	-
熊本	28,900	→	→	672	→	41	↗	309	↘	1,646	↘	9,167	↗	797	↘	2,246	↘	66	↘
大分	18,100	↘	↘	148	↗	2	↗	13	↘	1,932	↘	2,758	↗	703	↗	1,317	↘	19	↗
宮崎	12,700	↘	↘	1,978	↗	22	↗	22	→	887	→	7,207	↗	18	↘	207	→	-	-
鹿児島	15,800	↘	↘	1,389	↗	1	↘	12	↘	880	↘	4,081	↗	75	↗	310	↘	-	-
沖縄	544	↘	→	30	↗	-	-	2	↗	3	↘	22	↗	-	-	-	-	-	-

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
 注2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
 注3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
 注4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
 注5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和6年6月）

- 令和5年1月～12月の米の販売数量の対前年比は、小売事業者向けで+2%、中食・外食事業者等向けは+5%となっており、販売数量の計では+3%となっている。また、令和6年6月の対前年同月比は、小売事業者向けで+4%、中食・外食事業者等向けは▲2%となっており、販売数量の計では+7%となっている。
- 令和6年6月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差▲38万トンの115万トンとなっており、出荷段階は対前年差▲37万トンの84万トン、販売段階は対前年差▲1万トンの31万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)(速報)】

	5年													5年1月 ～12月計	6年					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月	4月	5月	6月	
小売事業者向け	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%	105%	105%	104%	102%	106%	108%	107%	108%	106%	114%	
(※令和元年との比較)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)	(102%)	(104%)	(108%)	(103%)	(110%)	(111%)	(108%)	(109%)	(114%)	(116%)	
中食・外食事業者等向け	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%	105%	105%	102%	105%	103%	106%	100%	99%	103%	98%	
(※令和元年との比較)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)	(100%)	(100%)	(98%)	(97%)	(96%)	(100%)	(95%)	(94%)	(102%)	(97%)	
販売数量計	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%	105%	105%	103%	103%	105%	107%	104%	104%	105%	107%	
(※令和元年との比較)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)	(101%)	(102%)	(103%)	(101%)	(103%)	(106%)	(102%)	(102%)	(108%)	(107%)	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの販売事業者（年間取扱数量約150万ト（令和5年産主食用米等の生産量661万トの約2割））である。

注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

注3：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年（4月までは平成31年）の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

(単位: Kg, %)

		5年													5年1月 ～12月計	6年					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月	4月	5月	6月	
米	購入数量	3.72	4.06	4.25	4.51	4.45	4.23	4.39	4.44	6.06	6.75	4.49	5.29	56.65	3.52	3.92	4.49	4.38	4.87	4.64	
	前年同期比	94.2%	98.1%	91.4%	99.3%	101.6%	98.8%	100.9%	102.1%	100.5%	93.2%	97.8%	109.1%	98.7%	94.6%	96.6%	105.6%	97.1%	109.4%	109.7%	
パン	前年同期比	96.9%	102.8%	93.5%	99.1%	95.2%	100.2%	93.0%	95.7%	101.1%	100.3%	96.3%	101.6%	98.0%	103.9%	101.2%	104.0%	101.4%	99.7%	96.9%	
めん類	前年同期比	98.0%	87.3%	90.7%	93.1%	95.8%	95.2%	94.1%	101.0%	91.5%	91.1%	94.9%	92.3%	93.8%	99.2%	100.0%	99.6%	94.1%	97.7%	103.7%	

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)(速報)】

(単位: 万玄米トン)

		当年											翌年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月					
4/5年	出荷+販売段階	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153					
	出荷段階	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121					
	販売段階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33					
5/6年	出荷+販売段階	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115					
	対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38					
	出荷段階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84					
	対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37					
	販売段階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31					
	対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲1					

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

注3：期間については、5/6年であれば、令和5年7月～6年6月である。

産地別民間在庫の状況（令和6年6月）

（単位：千玄米トン）

	5年 5月	5年 6月	6年 5月	対前年 同月差	対前年 同月比	6年 6月	対前年 同月差	対前年 同月比
	① (千玄米トン)	② (千玄米トン)	③ (千玄米トン)	④=③-① (千玄米トン)	⑤=③/① (%)	⑥ (千玄米トン)	⑦=⑥-② (千玄米トン)	⑧=⑥/② (%)
北海道	195.5	161.0	144.2	▲ 51.3	▲ 26.2%	113.2	▲ 47.8	▲ 29.7%
青森	86.4	76.0	66.8	▲ 19.6	▲ 22.6%	52.6	▲ 23.4	▲ 30.8%
岩手	91.1	75.9	75.6	▲ 15.4	▲ 16.9%	63.5	▲ 12.4	▲ 16.4%
宮城	117.4	101.4	93.1	▲ 24.3	▲ 20.7%	76.4	▲ 25.0	▲ 24.7%
秋田	124.2	98.4	96.4	▲ 27.8	▲ 22.4%	72.2	▲ 26.2	▲ 26.6%
山形	117.3	98.9	94.9	▲ 22.4	▲ 19.1%	76.6	▲ 22.2	▲ 22.5%
福島	101.0	87.7	93.7	▲ 7.2	▲ 7.2%	79.2	▲ 8.5	▲ 9.7%
茨城	73.1	60.3	54.2	▲ 19.0	▲ 25.9%	41.2	▲ 19.1	▲ 31.7%
栃木	105.2	88.3	88.4	▲ 16.7	▲ 15.9%	72.7	▲ 15.6	▲ 17.7%
群馬	17.0	13.7	12.0	▲ 5.1	▲ 29.8%	8.9	▲ 4.9	▲ 35.6%
埼玉	22.9	19.1	13.9	▲ 9.0	▲ 39.2%	10.3	▲ 8.7	▲ 45.8%
千葉	30.1	21.1	23.9	▲ 6.3	▲ 20.8%	14.7	▲ 6.4	▲ 30.2%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	1.1	0.8	1.2	+ 0.0	+ 4.1%	0.8	+ 0.0	▲ 1.9%
山梨	3.1	2.5	2.6	▲ 0.5	▲ 17.6%	2.2	▲ 0.2	▲ 9.9%
長野	43.1	37.2	38.2	▲ 4.9	▲ 11.5%	33.1	▲ 4.1	▲ 11.0%
静岡	8.2	6.1	6.4	▲ 1.8	▲ 21.9%	4.7	▲ 1.4	▲ 23.0%
新潟	140.0	113.5	123.2	▲ 16.8	▲ 12.0%	96.3	▲ 17.2	▲ 15.2%
富山	53.3	43.6	44.6	▲ 8.7	▲ 16.3%	32.3	▲ 11.3	▲ 26.0%
石川	38.5	31.6	32.1	▲ 6.4	▲ 16.7%	26.1	▲ 5.4	▲ 17.3%
福井	26.5	21.0	19.9	▲ 6.6	▲ 25.1%	15.6	▲ 5.4	▲ 25.6%
岐阜	23.0	20.3	15.7	▲ 7.3	▲ 31.7%	11.6	▲ 8.7	▲ 42.8%
愛知	20.9	16.4	15.0	▲ 5.9	▲ 28.2%	11.7	▲ 4.6	▲ 28.3%
三重	16.5	12.0	13.1	▲ 3.4	▲ 20.5%	8.8	▲ 3.3	▲ 27.2%

	5年 5月	5年 6月	6年 5月	対前年 同月差	対前年 同月比	6年 6月	対前年 同月差	対前年 同月比
	① (千玄米トン)	② (千玄米トン)	③ (千玄米トン)	④=③-① (千玄米トン)	⑤=③/① (%)	⑥ (千玄米トン)	⑦=⑥-② (千玄米トン)	⑧=⑥/② (%)
滋賀	33.9	27.0	21.9	▲ 12.1	▲ 35.6%	16.2	▲ 10.7	▲ 39.8%
京都	6.4	4.8	3.3	▲ 3.1	▲ 48.3%	2.6	▲ 2.2	▲ 45.0%
大阪	1.2	1.0	0.7	▲ 0.5	▲ 41.6%	0.5	▲ 0.5	▲ 52.1%
兵庫	28.0	23.1	23.5	▲ 4.5	▲ 16.0%	20.1	▲ 3.0	▲ 12.9%
奈良	7.9	6.7	5.1	▲ 2.8	▲ 35.3%	3.9	▲ 2.8	▲ 42.2%
和歌山	1.8	1.6	1.0	▲ 0.9	▲ 47.3%	0.8	▲ 0.8	▲ 50.2%
鳥取	15.7	12.5	12.3	▲ 3.4	▲ 21.5%	10.5	▲ 2.0	▲ 16.4%
島根	18.3	14.6	12.3	▲ 5.9	▲ 32.5%	9.0	▲ 5.5	▲ 38.1%
岡山	28.7	23.7	22.2	▲ 6.5	▲ 22.6%	18.4	▲ 5.4	▲ 22.6%
広島	22.9	18.3	15.9	▲ 7.1	▲ 30.8%	11.6	▲ 6.6	▲ 36.4%
山口	25.2	21.2	15.5	▲ 9.7	▲ 38.5%	12.3	▲ 8.8	▲ 41.8%
徳島	4.0	2.9	2.0	▲ 2.0	▲ 49.9%	1.4	▲ 1.5	▲ 52.1%
香川	10.3	8.2	6.5	▲ 3.9	▲ 37.2%	4.7	▲ 3.5	▲ 42.9%
愛媛	10.8	9.0	7.7	▲ 3.0	▲ 28.1%	5.8	▲ 3.2	▲ 35.5%
高知	4.8	3.6	3.7	▲ 1.1	▲ 22.9%	2.9	▲ 0.7	▲ 18.2%
福岡	42.0	33.7	30.7	▲ 11.2	▲ 26.7%	23.9	▲ 9.8	▲ 29.1%
佐賀	22.2	18.9	17.8	▲ 4.4	▲ 19.7%	13.2	▲ 5.6	▲ 29.9%
長崎	5.5	4.2	4.6	▲ 0.9	▲ 16.8%	3.4	▲ 0.8	▲ 19.8%
熊本	26.5	20.7	22.4	▲ 4.2	▲ 15.7%	16.5	▲ 4.2	▲ 20.1%
大分	12.0	9.7	8.0	▲ 3.9	▲ 32.8%	6.0	▲ 3.7	▲ 38.3%
宮崎	6.6	4.6	2.7	▲ 3.9	▲ 58.6%	1.7	▲ 2.9	▲ 62.7%
鹿児島	17.7	14.8	8.5	▲ 9.2	▲ 52.2%	6.4	▲ 8.4	▲ 56.9%
沖縄	0.0	0.4	0.0	+ 0.0	▲ 10.7%	0.4	+ 0.0	▲ 7.6%
全国	186万ト	153万ト	145万ト	▲40万ト	▲ 21.8%	115万ト	▲38万ト	▲ 25.1%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

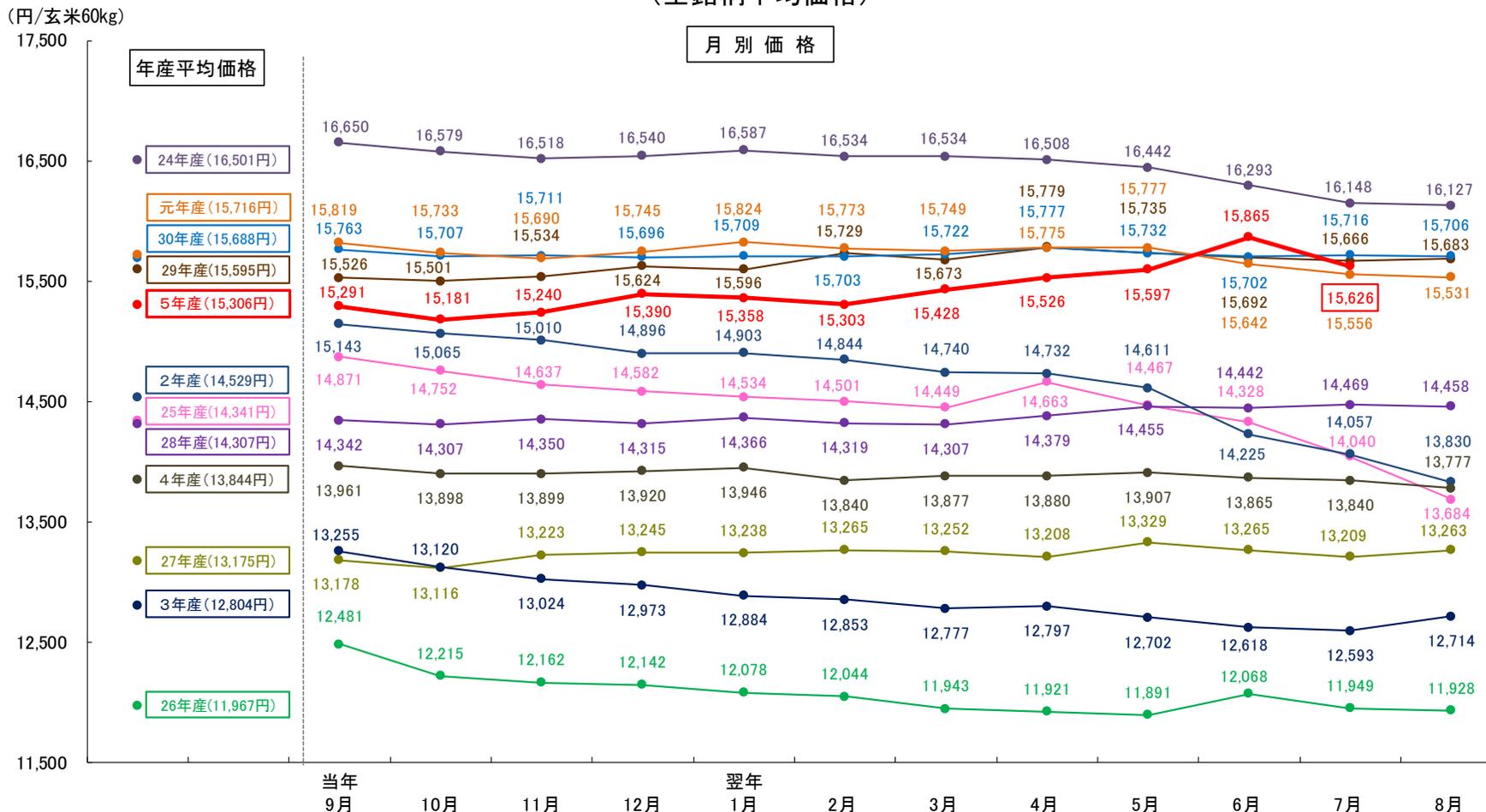
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

相対取引価格の推移（平成24年産～令和5年産）

○ 令和5年産米の令和6年7月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲239円の15,626円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+1,462円の15,306円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移（税込） （全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（5年産は出回りから令和6年7月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。